

滄水会ニュース

職業能力開発総合大学校同窓会誌
 〒252-5196 神奈川県相模原市緑区橋本台4-1-1
 職業能力開発総合大学校内 滄水会事務局
 Fax : 042-763-9267
 E-mail : sousuikai@uitech.ac.jp
 URL : <http://www.uitech.ehdo.go.jp/ob/b/index.html>



母校の発展を願う

痛恨の痛みとして、ご報告しなければなりません、行政改革に伴い我々が卒業した長期課程が廃止され、母校は創立の地である東京都小平市に移転することになりました。

ところで、今は日本は東日本大震災の復興に向けた本格的な動きが始まっています。この復興に大切なことは、被災地の既存のインフラの復興はもちろんですが、被災者の経済的な基盤を整えるという意味で産業の復興も重要です。この復興は、原発、計画停電等による首都圏の混乱からも理解されますように、被災地に留まらず、危機管理、資源・エネルギー、少子高齢化等の観点、及び世界的な産業再配置も考慮して、新規の産業をこの日本で創成する観点が最も重要であるということです。

一方、国土が狭く、かつ資源もない日本は、今後も豊富な人材を活用した物作り大国で生きるしかありません。だからこそ、創造的な物作りができて、明日の日本を担う基礎的な人材の養成、取り分け、その中核を担う指導者の養成が、産業の創成の要であることはいまでもありません。この重要性を理解して貰えず、我々の故郷でもある長期課程の廃止という判断をされた為政者に対して、大きな疑問を持たざるをえません。

ただ、一国民として見れば、大組織の一部である母校に直接的な責任はないとはいえ、職業能力開発と関係のない事業の拡大、組織の肥大化、非効率的な運営等も見

受けられたことも事実として認めなければならないと思います。

人生に迷ったときは自分の原点に返れと、良く言われていますように、我々卒業生としては、再度、母校の創立地である小平の原点に戻って、ゼロから創業するという心意

で頑張るしかありません。BRICs等の台頭により、日本の物作りは空洞化しつつありますが、幸いにも我々卒業生は物作り、またはその人材育成の専門家として、高い評価を受けていると自負しております。

この移転を好機として捉え、母校の建学理念である科学、技術、技能の原点に戻り、再度日本の職業能力開発、産業を支える優れた若い人材が輩出することを願っており、微力ながら同窓会もこのための支援を続けたいと思っています。



滄水会会長
宮崎 元成
 (機械科7期卒業)
 よつ葉国際特許事務所 所長
 (CLOVER PATENT OFFICE)

指導員養成50年の歴史と新たな50年に向けて

1961年に東京都小平市に中央職業訓練所（中訓）が設置されて以来、職業訓練大学校（職訓大）、職業能力開発大学校（能開大）、そして職業能力開発総合大学校（職業大）と4度名称が変わったが、その皆さんの母校は今年創立50周年を迎えた。

1961年といえばソ連のガガーリン宇宙飛行士が「地球は青かった」と叫び、アメリカのケネディ大統領が「Ask not what the country can do for you, but ask what you can do for the country」と鼓舞、国内では池田勇人による所得倍増計画進行中で、「巨人・大鵬・卵焼き」の時代であったといえは多くの方が思い出していただけるであろう。我が国産業が「安かろう、悪かろう」の戦後の工業製品時代から、ソニーのトランジスタラジオに代表されるような「安価・高品質製品供給国」に脱皮した時代で、それを支える工業人材が必要であった。そのため国は、1958年に「(旧)職業訓練法」、1969年に「(新)職業訓練法」、1985年に現在の「職業能力開発促進法」を制定し、以来、並行して職業能力開発基本計画を定め、我が国の産業技術の変化に対応できる人材供給に努めてきた。

職業能力開発基本計画は、指導員養成を設置目的とする本学の方向性に直接的、間接的に多大な影響をもたらすのは至極当然である。その第9次計画が、本学50周年に時を併せてスタートし、奇しくも本学の指導員養成のあり方を抜本的に見直すべきとの国の方針決定に基づき、本学の歴史ある4年制指導員養成長期課程は今年度をもって募集を停止し、平成24年度中には、先輩諸兄の血潮の臭いが残る相模原キャンパスを閉鎖し、創立の地、小平キャンパスに統合することになった。

50年のエポックとして新職業大は、職業能力開発基本計画を着実に実施していく上で、その職業能力開発の総合的プロデュース機能を担っていくことをミッションとする。そのためのビジョンは、グローバル経済下で



職業能力開発総合大学校
校長 古川 勇二

の我が国ものづくり産業の構造的変化を精緻に予測し、それを支える人材育成に向けて職業訓練分野と方法論をリードしていく。具体的事業としては、

指導員養成：職業訓練社会が必要とする多様な指導員供給の要請に対応すべく、社会人を含む多種の入学生に対するマルチパス・マルチタームの指導員養成課程の整備。
指導員研修：指導員が常に時代の先端の指導能力を保持できるように、大多数の指導員の年1回研修の実施。

研究開発：職業能力開発に関わる調査研究、訓練カリキュラム・指導技法・就職支援技法の開発・普及。職業訓練に関わる国際標準（ISO）への対応。

学部教育：上記～を反映した工学教育と職業教育を一体化した学部教育の実施。

以上のミッション、ビジョン、メソッドをもって来るべき50年に望む所存、卒業生諸兄がこの方針をご理解いただき、ご支援いただけることを切望する次第です。

職業大創立50周年記念行事のご案内

1961年4月に設立された本校は、2011年4月で設立50周年を迎えることができました。これまで職業大を支えてくださった皆様への感謝と今後の発展の意味を込め、職業大では、50周年記念行事を予定しております。会員の皆様にご案内し、その他の行事については、後日お知らせ（郵送、ホームページ）をさせていただきます。

学園祭（参加無料）

（日時）2011年11月12日（土）～11月13日（日）

（場所）職業能力開発総合大学校

（神奈川県相模原市緑区橋本台4-1-1）

（内容）模擬店、各種イベント、ゲーム大会、フリーマーケットなど予定

職業大の学生が出店する模擬店は毎年大盛況です。なかでも留学生が自国の料理を振る舞っている模

擬店は売り切れが発生することもあるほどの人気です。

ホームカミングデー（参加無料）

（日時）2011年11月12日（土）13:00～15:00

（場所）職業能力開発総合大学校 福利会館

（神奈川県相模原市緑区橋本台4-1-1）

（内容）歓迎プログラム（校長挨拶、滄水会会長挨拶）交流会などを予定

職業大ホームカミングデーは、卒業生が旧友や懐かしい恩師と再会し、親睦・交流を深めて頂くため、そして何より「母校に帰ってきて頂きたい」という思いを込めた企画です。

11月12日～13日は学園祭が実施されておりますので、在校生との交流も楽しむことができます。ご家族あるいはご友人などとお誘い合わせの上、ご参加ください。

通常総会の御案内

本年は、滄水会通常総会開催の年となっており、総会を下記の要領にて開催させていただきたくご案内申し上げます。今年度の総会は、創立50周年記念式典と同日開催としました。

つきましては、会員の皆様には、ご多忙の頃とは存じますが、是非ご出席下さいますようお願い申し上げます。

記

総会

日時 平成23年9月10日(土) 12:30~13:30(受付:12:00~)

場所 相模原市民会館 第一大会議室

会場周辺には駐車場が少ないため、公共交通機関をご利用ください。

会費 **総会のみのお席の場合は無料です。**

懇親会 通常総会、記念式典終了後 17:00~19:30

場所: 職業大福利会館 会費: 5,000円

相模原市民会館から職業大までは、借り上げバスをご利用ください。

なお、総会の出欠を同封の返信用封筒で8月19日(金)(必着)までにご連絡下さい。ご出席いただけない場合は、委任状欄にご署名のうえ、投函して下さいますようお願い申し上げます。

本総会では、会則12条および選挙に関する細則に則り、役員(会長、副会長、理事、会計監事)の改選を行います。平成23年~26年の役員に立候補する会員は、文書に役職名を明記の上、8月31日(水)(必着)までに書留にて滄水会事務局へ送付して下さい。

相模原市民会館

〒252-0239 神奈川県相模原市中央区中央3-13-15 Tel: 042-752-4710 Fax: 042-753-2000

URL: <http://www.hall-net.or.jp/03shiminkaikan/>



JR横浜線「相模原駅」南口

神奈川中央交通バス『1番』『2番』6番』乗り場よりバス5分。

神奈川中央交通のホームページ バスの時刻表や運行状況が検索できます。

駅から会場までのアクセス

「市民会館前」バス停下車 徒歩すぐ

バス1番乗り場から、相05系統・相模大野駅行き

バス6番乗り場から、相12系統・上溝行

「市役所前」バス停下車 進行方向へ徒歩1分

バス2番乗り場から、

相25・28・29系統・相模大野駅行

相21系統・小田急相模原駅行

相27系統・相武台前駅行

滄水会賞 授与式（平成20年度～22年度）

「滄水会賞」は、職業能力開発総合大学校の同窓会組織である「滄水会」の創立30周年を記念して平成7年に創設された賞です。本年で第16回を迎えることができました。

この賞は、人物および学業が優秀である者または一芸に秀でており、将来社会において大いに貢献が期待される卒業生を対象として、各工学科から1名を選出し、滄水会が表彰するものであります。

記念品のメダルは高山英樹先生（当時、造形工学科、現専門基礎学科）のデザイン、中村元隆先生（当時、造形工学科）の製作によるものであり、植物の芽吹く力と泉から噴き出す水の勢いを表現したものであります。

平成20年度～22年度にかけて、留学生5名を含む21名の卒業生に対して、滄水会賞が授与されました。

卒業後のご活躍を期待いたします。



滄水会 メダル

平成20年度受賞者

- | | |
|---------------|-------------|
| <精密機械システム工学科> | 葛原 広人 |
| <機械制御システム工学科> | 渡辺 学 |
| <電気システム工学科> | 吉川 潤 |
| <電子システム工学科> | 伊藤 隆博 |
| <情報システム工学科> | パノット シリアーラヤ |
| <通信システム工学科> | 山野 寛之 |
| <建築システム工学科> | 中谷 友美 |



平成21年度受賞者

- | | |
|---------------|------------|
| <精密機械システム工学科> | 尾方 孝彰 |
| <機械制御システム工学科> | 上久木田 靖広 |
| <電気システム工学科> | ユディ クリスタント |
| <電子システム工学科> | ティー チン ヨン |
| <情報システム工学科> | 大森 慎吾 |
| <通信システム工学科> | 渡邊 一弘 |
| <建築システム工学科> | 前田 裕香 |



平成22年度受賞者

- | | |
|---------------|-----------|
| <精密機械システム工学科> | 大北 健二 |
| <機械制御システム工学科> | 長田 宗憲 |
| <電気システム工学科> | 佐藤 泰之 |
| <電子システム工学科> | ファドリオンディ |
| <情報システム工学科> | 結城 衛 |
| <通信システム工学科> | ヒエン ラッケナー |
| <建築システム工学科> | 篠田 久美子 |



滄水会賞を受賞して

平成20年度～21年度に滄水会賞を受賞した卒業生を代表して、平成20年度受賞者 山野さん(通信44期卒)、平成22年度受賞者 大北さん(精密機械46期卒)に、「滄水会賞を受賞して」というタイトルで寄稿して頂きました。



山野 寛之

平成20年度受賞
通信システム工学科44期卒業
電気・情報専攻 21期修了
株式会社 NTT-ME

卒業後、研究課程に進学した私は、改めて『職業大の強さ』と『友人の存在』を強く感じました。

大学の講義では、工学的な知識、技術、技能を学び、実習を通すことで、より実践的な能力を身につけることができました。なかでも、工場実習や実務実習の経験は、学術的、能力的な面のみならず、人との繋がり、強さ、大切さを学ぶことができました。グループワークとして実習課題を成し遂げた経験や、協力して製作物を作ったことは、貴重な時間であったと感じています。より良い結果を得るために、対象を冷静に分析し、改良を重ねていくことで完成度を高めました。そしてモノづくりの楽しさは、一人より二人、二人より三人で協力した方が遥かに大きいことを知ることができました。それは友人だけでなく、先輩方、後輩そして恩師である先生方に恵まれてこそ、と今は思います。

卒業を迎え、研究課程に進学した私は、周りが巣立つとともに一抹の寂しさもありますが、新たな友人、ライバルが増える予感を胸に、今後は物事をより論理的に考え、研究に取り組んでいきたいと思っています。



大北 健二

平成22年度受賞
精密機械システム工学科46期卒業
八幡職業能力開発促進センター

卒業を迎え、思い起こせば大学生活は大変短いものを感じ

ました。しかし、この大変短い間に工学的な専門知識、技術、技能を数多く学び、習得することができ、本校特有の能力開発科目では人にもものを伝える難しさや、働くことの意味、大切さなど、多くのことを学ぶことができました。

また、実務実習、インターンシップでは、価値観の異なる多くの人と接し、社会性をはぐくむとともに、私たち自身の人間性を深めることもできました。そして、この大学生活のなかで、多くの仲間を見つけ、よき友人、よきライバルとして互いをみつめあって切磋琢磨することもできました。これらの短い間で育まれたものは今後の人生で、どれだけの月日が流れようとも私の中で生き続けるものと考えております。

また、時世は国難にあえぐ中にあり、就職後、今まで以上に大きな困難が待ち受けているものと思います。しかし、どんな問題や困難に直面しても、自分自身を信じて確かな足取りで歩んで行きたいと考えております。

滄水会賞 受賞者の近況報告

ここでは、滄水会賞を受賞してから10年を超えた、平成10年度受賞者の澤口さん、平成7年度受賞者の古賀先生に、卒業後の近況報告を寄せて頂きました。



澤口 亮

平成10年度受賞
造形工学科35期卒業
建築・造形専攻11期修了
株式会社 クローネ 代表

滄水会賞を受賞してはや13年。私も30代半ばとなり脂の乗った世代へと徐々にシフトしつつあります。

総合大の研究課程を卒業してからは、店舗デザインをする為に入社した飲食チェーン店でなぜか調理場の仕事をしたり、インテリア雑貨のメーカーでデザインや生産管理業務をしたりと紆余曲折ありながら進んできたこの10数年。様々な経験をさせていただきました。そして、6年前に一念発起の末独立し、神奈川県鎌倉市にて北欧インテリア雑貨の輸入と小売、卸売の会社を営んでおります。

僕自身、指導員というルールには乗れず、現在は販売という異なった立場で仕事に従事しておりますが、しばしば総合大で培った知識や経験、人脈が活躍するからこれまた不思議です。海外で販売商品を探しているとき、オリジナルの商品を開発するのに作り手と打ち合わせをしているとき、取引先とコスト交渉をするとき、様々な場面で『あれっ、役立って

いる!』と思うのです。

特に、商品プロデュースの面でそれを感じる事が多々あります。

腕はあるが、デザイン力がなく商品が生み出せない職人。デザイン力はあるが、生産技術がないために商品が生み出せないデザイナー。それら両者を結びつけて商品を生産するときには総合大での実習をメインとした知識や経験が役立っています。

どの大学でもそうだと思いますが、在学中に得られた知識と言うのは広く浅く、言い換えるならば専門知識の導入部分。社会で即通用し、立ち回れるかと言うとそんなことはなく…。知識は入っているけど、浅いもので実際にどう使っているのか分からない。使えたとしても、線ではなく点なので応用が利かない。在学中に得た知識を社会で実践・活用するには、その導入部分を卒業後にどれだけ掘り下げられるか。それが日々の仕事のクオリティに表れます。

そういった面では、実習が多い総合大はその導入部分の掘り下げが他大学と比べ深く、実践知識に結び付けやすい。また、自分で手を動かして実習している分、相手への説得力が増し、業務をスムーズに進めやすいという大きな利点であると感じています。正直申し上げると、学生時代はそこまで感じておらず、今になってやっと分かったのですが…。

指導員養成の総合大の目的からすると、大学の望む道には進んでいないのかもしれませんが、しかし、僕自身は総合大を卒業してとても満足していますし、ここを卒業して良かったと思っています。

これからも日々仕事の密度を高めながら、謙虚さを持って仕事に従事したいと思っています。

もし神奈川方面にお越しの際には、観光がてら鎌倉の当店にもお立寄りいただけたらと思います。

北欧雑貨krone (クローネ)

URL:www.krone-kamakura.com



古賀 俊彦

平成7年度受賞
生産機械工学科32期卒業
職業能力開発総合大学校
機械システム工学科

職業大を卒業して、早いもので15年が経ちました。私が卒業した平成7年度に初めて滄水会賞ができ、受賞することができました。この場をお借りして感謝いたします。当初は、滄水会賞を頂いたことで、仕事の時にプレッシャーを感じておりましたが、現在では、頂いた賞に恥じないようないいプレッシャーを感じながら頑張っています。

現在、母校である職業大に人事交流として来て3年目になります。私が学生時代に勉強した環境、育った場所に戻ることは全く考えたことがなかったので、初勤務、初授業のときは不思議な感じがしました。また、学生時代に教わった先生ばかりで違った緊張感もあり、自分の後輩にあたる職業訓練指導員を育成することに不安もありました。しかし、学生時代の恩師をはじめ、過去の勤務先であるポリテクセンター鹿島、ポリテクカレッジ高知などでいろいろな方に出会い、そこで学んだ技能・技術・経験を生かし、まだまだ微力ではありますが、指導員の育成を頑張っています。

また、別件になりますが、昨年度より近隣の先輩方と訓大野球部OB会を立ち上げ、OB戦も行いました。皆さん運動不足にもかかわらず、往年のプレイが見られ楽しくできたと思います。まだまだネットワークを広げたいと考えておりますのでOBの方はぜひHPにアクセスしてください。よろしく願いいたします。

URL:<http://kundaibbpage.web.fc2.com/>



OB戦終了後の記念撮影 (試合結果 引き分け)

定年退職教員（平成20年度～22年度）からの便り

平成20年度から22年度の3年間に定年退職され、職訓大・職業大の発展に多大なるご尽力を下さった先生方を、下表のとおりご紹介いたします。所属学科名は定年退職時に在籍された学科名を記載しております。

平成20年度		平成21年度		平成22年度	
所属学科名	氏名	所属学科名	氏名	所属学科名	氏名
専門基礎	天野 富男	専門基礎	坪田 実（塗装科8期）	機械制御	森 周蔵（溶接科13期）
専門基礎	久下 靖征（塗装科2期）	専門基礎	町田 成男	電子	須田 敏和
精密機械	廣田 平一（機械科2期）	専門基礎	五十嵐 貫	電子	青柿 良一
精密機械	片岡 義博（鋳造科7期）	機械制御	福谷 格（運輸装置科4期）	電子	窪田 政一
電子	鳥居 康弘	機械制御	安田 克彦（板金溶接科4期）	建築	梅津 二郎（木材加工科6期）
建築	糸井 孝雄	機械制御	岡西 直樹（運輸装置科8期）	応用研究科	八田 昌之（第二電気科4期）
		精密機械	海野 邦昭（機械科4期）	通信	大野 邦夫
		電子	黒柳 秋男（第二電気科8期）		

4年+43年を振り返る

八田 昌之（第二電気科4期）

私は昭和39年（1964）に、職業訓練指導員の養成と能力向上を目的として昭和36年（1961）に設立された中央職業訓練所に第二電気科4期生として入所、昭和43年（1968）卒業、同年4月雇用促進事業団に入団、職業訓練大学校（旧中央職業訓練所）第二電気科助手として配属、以来43年間同校に勤務、そして平成23年（2011）3月31日に定年退職しました。4年+43年という年月は、おそらく生涯の半分以上を、組織の名称は変わりましたが、同じ場で学び働いてきたことになるでしょう。

退職後（平成23年度）、職業能力開発総合大学校（設立時は中央職業訓練所）は、同年度中に雇用・能力開発機構（旧雇用促進事業団）が廃止され、当機構に代わる新たな団体のもと、相模原の地を離れ設立時の小平の地に戻り、職業訓練指導員養成のお墨付きのない新たな役割・体制で再出発することになっています。

そこで、私が学び働いてきた場について振り返り、再出発にあたっての私見を述べてみたいと思います。

私は山口県出身です。確固たる目標があったわけではなく、ものをいじくるのが好きで、また父の薦めもあり、実習や実験に重きをおいた中央職業訓練所の入所試験を受けてみることにしました。“訓練所”ということで多少抵抗感はありましたが、当時は、職業訓練指導員としての就職が保証されていたことも受験の要因でした。ちなみに、志望科は第二電気科（現在の電子システム工学科）です。受験勉強なるものをしていないまま試験に臨み、感触として受かる筈がないと思っていたのですが、なぜか受かってしまいました。今にして思えば、応募者が少なかったのでしょう。

在所中、今でも鮮明に記憶に残っているものとして、初代校長である成瀬先生の「科学・技術・技能の一体化」という言葉で、ものづくりの大切さを説かれたが実感がなかったこと、入所後まもなくして、私が所属している科の学習内容と、およそ関わりがないと思われる手仕上げ、板金、鋳造・鍛造、木工、塗装などの加工作業を順繰りに行う各科（8科）共通の実習、実習や実験の時間が非常に多く楽しい時間でしたが、そのレポート作成には悩まされたこと、電気・電子分野の基礎理論である電磁気学、交流回路論、過渡現象論の講義で、正直言って、難解でほとんど理解できず、また何の役に立つのか疑問で、試験のための勉強に終始したことです。

入団後、訓練生（学生）の能力開発に携わる立場になって40年余り、今になって、何故、これらが鮮明に記憶に残っているかの理由が分かった気がしています。それは、訓練生時代のなごりか、特別な行事を除いて職場でも作業服を違和感なく着ていたことかな、と思っています。つまり、作業服を着ていることで、工学的な専門分野に関する学術研究に指向したくないという気持ちを持ち続けたいという意識がはたらいっていたような気がします。

さて、本校は本年50周年を迎えますが、その直前に長期課程の廃止が決まり、前述したように、職業訓練指導員養成のお墨付きのない人材育成へと転換し再出発することになっています。長期課程が廃止に至るまでに、中央職業訓練所設立から職業訓練大学校（昭和40年2月）に改名、そしてさらに、職業能力開発大学校（平成5年4月）、職業能力開発総合大学校（平成11年4月）へと改名されています。その間、規模を拡大して相模原の地への移転（昭和48年8月）、定員の増減や科の再編、大学院への入学資格認可（昭和46年3月）、「学士」授与（平成3年12月）など、長期課程卒業生の就職・進学先が広まる方向で進められてきました。一方、職業訓練指導員としての就職先はというと、職業訓練指導員免許の有無を問わない団体・企業もあって、逆に狭められていきました。

その結果、本校の長期課程の役割や目的が曖昧になり、また、本校が職業訓練指導員としての就職を保証できなくなり、廃止に至ったのだと、私は思っています。

つまり、職業訓練指導員という、お墨付きだけにすぎたのではないのでしょうか。学術に指向しすぎたのではないのでしょうか。他方、長期課程の人材育成コストが高すぎるのも廃止要因の一つだとも云われています。

そこで、再出発にあたっての私見ですが、本校設立時の人材育成の理念に立ち戻り、例えば職業訓練指導員という人材の本質と、その実体化に努めるべきだと思います。すなわち、成瀬校長が説かれた「科学・技術・技能の一体化」による「ものづくり」の理念を継承できる人材（職業訓練指導員）育成の場であるべきだと思っています。

おわりに、本年3月、想定外といわれている東日本大震災と原子力発電所の事故によって、地方分権などの国のあり方、原発依存や省エネなどのエネルギー政策の転換、大企業の弱点などがクローズアップされています。大震災という未曾有の災害を機に、本校においても人材育成の体制や対象、個性化などを再検討すべきではないでしょうか。



留学生便り

世界各国で活躍する卒業留学生をご存じですか？

卒業留学生：総239名

インドネシア61名、タイ57名、中国30名、マレーシア30名、
フィリピン21名、シンガポール19名、ベトナム9名、ラオス6名、
スリランカ3名、カンボジア3名

研修修了指導員：総1,727名

アジア圏895名、大洋州圏47名、中東圏178名、
アフリカ圏371名、中南米圏231名、欧州圏5名



長期課程（4年課程）における国費外国人留学生受入事業は平成4（1992）年10月に開始され、開発途上国における質の高い職業訓練指導員及び職業能力開発に携わる者の養成・確保への協力を目的として、日本の国費により募集対象国から毎年16名（平成22年度は12名）を受け入れた。平成23（2011）年4月8日現在、57名の留学生が在学している。これまでに190名が卒業し、それぞれの出身国に戻り、主に労働省等で活躍している。

これより先には中国（1980年～1992年）から30名、シンガポール（1981年～1989年）から19名の留学生を長期課程に受入れた。彼らは卒業後、政府の高官、大学教授、企業の創業者等になって世界各国で活躍している。

研究課程は平成13（2001）年4月に開始され、募集対象国（インドネシア、マレーシア、フィリピン、タイ）から毎年留学生2名を受け入れ、平成23（2011）年現在、4名の留学生が在学している。修了生は母国の労働省等で活躍している。

一方、海外技術研修員の受入事業（集団研修）は開発途上国を対象に、職業訓練指導員や職業訓練業務に携わる中堅技術者を受け入れて研修（1年～6カ月間）を行い、人材育成に貢献している。これは、JICAとの協力事業として、我が国政府が行う国際技術協力の一環を担っており、47年間（1963年～2009年）実施され、研修指導員の受入人数は、92カ国から1,727名にのぼる。

マレーシアのハリム アリ 人的資源省労働部訓練管理担当次長 （産業機械工学科33期）が母校で講演

マレーシアのハリム アリ次長に平成21年10月29日、職業大で「マレーシアの職業訓練事情について」講演を行って頂きました。

ハリム氏が勤務する人的資源省は27校の訓練校（日本マレーシア技術学院1校、上級技術訓練センター4校、産業訓練専門学校22校）を管轄しており、卒業生数は毎年、養成訓練だけでも約9,000人います。

今後、マレーシアでは高度な技術・技能者のニーズが高ま



ハリム アリ氏講演の様子

ることから、新たに5校の訓練施設が建設されています。

彼はラブアン産業訓練専門学校校長職を経て現在、人的資源省の教育訓練担当の管理責任者として活躍していますが、日本に留学して、当大学校で学んだことが非常に役に立っていることを強調されています。

マレーシア人的資源省で活躍する 卒業留学生の紹介



En. Zulkefli bin Ab Manan
（産業機械工学科33期卒業）
ITI Perai校長



En. Muzafar Shah Mohd Shah
（産業機械工学科36期卒業）
ITI Perai副校長

ITI (Industrial Training Institute)
（ペライ産業訓練専門学校）

本大学校を卒業し、母国で活躍している
帰国留学生及び指導員研修を修了した帰
国指導員等は大学校の財産であり、海外
との人的ネットワークです。

インドネシア卒業留学生の活躍

当大学のインドネシア卒業留学生は労働移住省の本省、CEVEST海外職業訓練開発センター、BANDUNG国内職業訓練開発センター、SERANG産業職業訓練センター、SOLO産業職業訓練センターで働いていますが、本省内には15名が勤務し、4名が管理職になっています。

彼らは労働移住省の重要な仕事を担い、お互いに協力をして活躍していますが、日本に留学して、当大学で学んだことが非常に役に立っていると述べています。

卒業後、指導員になって実際に訓練を指導する時に職業大で学んだ実技訓練、指導技法及び実務実習等が活かされていること、また本省で仕事をする時にはハローワークと情報を交換しつつ職業訓練施設で受講する訓練生を就業へと導く手法等も理解できること、さらには訓練内容、訓練機材及び訓練管理等が理解できるので国の職業能力開発に関する施策の基本的方向を示す計画を策定することができる等、他の大学では学べなかったことを強調しています。



労働移住省の本省、CEVEST海外職業訓練開発センターで働く卒業生



労働移住省の本省で管理職として活躍する卒業生



Budi Wikaningtyas
電子工学科34期



Surya Lukita
電子工学科36期



Dewi Angraini
情報工学科38期



Caroline K Dewi
造形工学科40期

卒業留学生の会員からの便り

ここでは、職業大に留学し、ご活躍をされている卒業生からの便りを紹介します。

今回は、電気科20期卒で、現在は筑波大学 システム情報工学研究科で教授としてご活躍されております張 勇兵先生に「職訓大での思い出」と題してご寄稿して頂きました。

職訓大での思い出



筑波大学
システム情報工学研究科
社会システム・マネジメント専攻
教授 張 勇兵
電気科20期（1984年卒業）

私が運良く中国改革開放政策の恩恵を受け、1980年に職業訓練大学校（職業能力開発総合大学校の前身）に留学させていただくことができました。当時鎖国だった中国から来た私にとって日本のすべてが新鮮で、何もかもが初めての体験でした。

入学してから田岡忠美先生にお世話になり、私たち9人は留学生のためのゼミ形式講義を受けました。その講義は日本工業史のほか、研究者として、未知の世界への探求心、何事に対しても「どうして」と質問する姿勢、そして、問題に対する解答を求める意欲の重要性に関する内容だったと記憶しています。

また、卒業研究は大川時夫先生に指導を受けることになり、自分の決めたことを必ず最後までやり通し、理論の理解だけでなく、実験でそれを再現せよというように指導されました。私がコンピュータに興味を持ったため、その動作原理を勉強しながら、秋葉原のパーツ屋と神田のパソコン古本屋に通い、自分で一からコンピュータを組み立てました。

職訓大恩師から教授されたことは今日学生を指導する際の座右の銘になっています。



単霽翔局長(建築科20期生)が
アメリカ都市計画協会のAPA賞を受賞

中国の国家文物局の単霽翔(シャン・ジーシアン)局長は、「職業大の恩師である糸井孝雄先生は専門分野の選択に対して、私の人生に多大な影響を与えた」と言っておられます。職業大長期課程(1980~1984年)に在学し、卒業論文のテーマは「歴史的街並みの保存と再生に関する研究」でしたが、この研究はその後、局長が携わっている中国の文化遺産保護事業に大きな影響を与えています。

局長は8年ほど前より現在まで中国国家文物局のトップを務めておられ、この間に次のことを実施し、現在も進行中です。

- ・中国で文化遺産保護の重要性を呼びかけ、法律に照らして文化遺産破壊行為を制止
- ・中国に1,740以上ある博物館に呼びかけ、全国博物館無料開放を実現
- ・大型考古遺跡の保護と国家考古遺跡公園の建設を推進し、文化遺産保護における成果を市民の生活に導入
- ・国家文化遺産保護法律の体系の構築と「文化遺産日」設立の制定
- ・毎年新たなプロジェクトが世界遺産に登録され、現在その数40にも上り、世界第3位
- ・中央アジア5カ国と共同で「シルクロード」のうちの「砂漠の道」を世界遺産に申請

学術面では清華大学の博士課程で学び、清華大学優秀博士学位論文の一等賞を受賞。またアメリカ都市計画協会のAPA賞を受賞し、アメリカで「都市化の加速過程における文化遺産保護」の公演を行われました。

現在、清華大学、北京大学などの大学で教授と博士課程の指導教官を兼任され、また中華文物交流協会会長にもなっておられます。



アメリカ都市計画協会のAPA賞を受賞

近年の学生の活躍

学協会から論文賞等で表彰された平成21年度~23年度における学生(所属は当時、現滄水会会員)の活躍を紹介します。このうち、H22年度に日本設計工学会武藤栄次賞を受賞した立石さんについては、概要を掲載させて頂きました。

小山 孝(研究課程 電気・情報専攻)

平成21年度電気学会全国大会優秀論文発表賞

「電圧形インバータを用いた直流試験法による交流機の等価回路インピーダンス算出法に関する基礎検討」

平成21年度電気学会ヤングエンジニアリング ポスターコンペティション優秀発表賞

「電圧形インバータを用いたステップ応答法による誘導機の演算子インピーダンス算出法」

木綿 次郎(研究課程 電気・情報専攻)

平成21年度電気学会産業応用部門優秀論文発表賞

「操舵感覚の向上を考慮したステアパイワイヤシステムの制御法」

ジョン・アダウェイ(研究課程 電気・情報専攻)

平成21年度 電気科学技術奨励学生賞

「Maximum Efficiency Drives of Interior permanent Magnet Synchronous motor Considering Iron Loss and Cross-Magnetic Saturation」

長浜 豊華(研究課程 電気・情報専攻)

平成21年度ライフサポート学会奨励賞

「超音波センサと全方位カメラを用いた電動車いすの転落・点灯及び衝突回避システムに関する研究」

黒坂 尚生(精密機械システム工学科)

平成21年度日本設計工学会 武藤栄次賞

「自律型全方位移動器の開発に関する研究」

山口 隼平(研究課程 機械専攻)

平成22年度ライフサポート学会奨励賞

「超磁歪素子を用いた車椅子駆動力計測システムの開発」

島田 佳織(電気システム工学科)

平成22年度 電気設備学会全国大会発表奨励賞

「建築物に対する年間の危険な事象への所在地係数の影響」

植松 竜馬(電気システム工学科)

平成22年度 電気設備学会全国大会発表奨励賞

「接続端子部の接続状態と温度上昇との関係に関する実験的検討」

立石 太志(精密機械システム工学科)

平成22年度 日本設計工学会 武藤栄次賞

「小型バニシ工具の設計・製作及び使用条件の検討」

概要: バニシ加工は、金属表面に硬い工具を擦りつけて耐摩耗性・耐腐食性を向上させ鏡面に仕上げる加工法である。従来は3軸のマシニングセンタでバニシ加工を行ってきたが、本研究では適用拡大を計るため、5軸のマシニングセンタの導入とそれに適した新しいバニシ工具の設計・製作を行ない、適切なバニシ加工条件を得ることを目的とした。

事務局だより

住所変更等のお願い

会員の皆様の住所変更等がございましたら、滄水会事務局までご連絡をお願いいたします。

住所変更方法は、同封しております会員調査票(<http://www.uitec.ehdo.go.jp/ob/b/04/06/index.html>)に記載の上、滄水会事務局までFAX(042-763-9267)をして頂くか、e-mailにてsousuikai@uitec.ac.jp宛に、ご送付願います。ご不明な点などがございましたら、事務局までお問い合わせ下さい。

この住所変更は、滄水会総会やニュースなどのお知らせを確実にお届けさせて頂くためとともに、間違った住所への発送によって、滄水会員の皆様からお預かりしている大切な会費の無駄使いを避けるためにも大変重要な事業であります。ご理解ご

協力の程、何卒よろしくお願い申し上げます。

なお、皆様よりお知らせいただいた住所、氏名、勤務先、その他の個人情報、同窓会及び大学校が主催する行事、個人を特定しない統計的集計を目的とした利用以外には一切使用いたしません。

住所に関しての個人情報は(株)廣濟堂にて一括で管理され、調査票は破棄されます。また、(株)廣濟堂とは秘密保持のため個人情報業務委託契約等を取り交わしており、適切な管理を行っております。

また、全国の職業能力開発施設の滄水会会員の皆様のご協力によって、今年度の4～6月に住所変更の届けを多数(800件以上)頂きました。お取り纏め頂きました皆様に御礼申し上げます。

終身会費納入のお願い

滄水会の活動は、卒業時に徴収される終身会費と次項で述べる維持寄付で運営されています。事務局では経費削減に努めておりますが、会員数の増加に伴い、通信連絡費・印刷費などが増加しており、会をスムーズに維持していくことが困難な状況となっております。

卒業生の皆さまは、同窓会会則により『終身会費 10,000

円』を納入していただく規定になっており、ご協力をいただいております。卒業時に終身会費をお納めいただいております方には、滄水会ニュースと共に払込取扱用紙を同封しました。何卒、滄水会維持発展のため、会費納入にご協力くださいますよう切にお願い申し上げます。

維持寄付のお願い

滄水会では、会員資格20年ごとに滄水会維持発展のために維持寄付をお願いしております。20年目の節目に、是非、滄水会を盛り上げていただきたく、ご寄付をお願い申し上げます。勝手ながら、維持寄付依頼対象者は「91年(27回卒業)の会員までの方」となっております。該当の会員には払込取扱用紙を同封いたしましたので、次の要領で払い込みくださいますようお願いいたします。

維持寄付金：一口 5,000円

(できるだけ2口でお願い申し上げます)

払込み方法：同封の払込取扱用紙をご利用の上、最寄りの郵便局から払い込みください。

ご注意：「会費未納の方」で、かつ「維持寄付依頼対象者」には、2通の払込取扱用紙が同封されております。

寄稿のお願い

会員の皆様には、同期会や支部会などの開催情報がございますら、集会の告知や開催報告などについてご寄稿願います。

また、滄水会ニュース全般に関するご意見、ご感想、ご提案などを事務局までお寄せくださいますようお願い申し上げます。

編集後記

東日本大震災で亡くなられた方々へのご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々へ心よりお見舞い申し上げます。会員の中にも被災された方々がいらっしゃいます。一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

滄水会ニュース発行が遅れましたことに、会員の皆様に深くお詫言いたします。2009年の発行に向けて準備を進めてまいりました。しかし、職業大を取り巻く状況が一転二転と変化し、会員の皆様に正確な情報をお伝えすることができませんでした。ここにきて、職業大の方向性が決定し、今回の滄水会ニュース発行に至りました。今回のニュースでは、主にこれまでに伝えることができませんでした3年

間の出来事や、世界中でご活躍されている留学生の様子をとりあげました。

今後、職業大は長期課程が廃止され、新たな総合課程として生まれ変わります。会員の皆様には、これまでと同様にご支援を賜りますようお願い申し上げます。

留学生便りコーナーでは、糸井孝雄名誉教授(建築)、萬野三男氏(板金科11期)に多大なるご協力を頂きました。また、ニュース中の大学校の写真は、建築システム工学科 橋本幸博先生にご提供を頂きました。ここに記して、深謝の意を表します。ご協力、誠にありがとうございました。
滄水会事務局一同

発行日：2011年7月 発行者：滄水会会長 富崎元成

編集委員：菅野恒雄、山下陽一郎、松本和重、池田知純、川上善嗣、田村仁志、宮崎真一郎、中谷 努、山崎尚志、塚崎英世

滄水会ニュース 第21号

〒252-5196 神奈川県相模原市緑区橋本台4-1-1

職業能力開発総合大学校内 滄水会事務局

FAX：042-763-9267

E-mail：sousui@uitec.ac.jp

相模原市が平成22年4月に政令指定都市に移行したために郵便番号、住所が変わっております。